

2014年 七ヶ浜アウトリーチ 報告書

《事業のねらい》

- ・鑑賞プログラムとワークショップを組み合わせ、音楽教育における鑑賞と表現活動の有機的な関連を図る。
- ・東日本大震災による児童の心のケアを音楽によって行う。

《実施概要》

*アーティスト：仲道郁代 ファシリテーター8名

◎2014年11月11日実施（七ヶ浜町立汐見小学校）

2時限目（9:35～10:20）「鑑賞型プログラム」（6年生74名）音楽室

3時限目（10:30～11:15）「体験型プログラム」（6年1組37名）音楽室・教室

4時限目（11:20～12:05）「体験型プログラム」（6年2組37名）音楽室・教室

◎2014年11月12日実施（七ヶ浜町立亦楽小学校）

2時限目（10:05～10:50）「鑑賞型プログラム」（6年生50名）音楽室

3時限目（10:55～11:40）「体験型プログラム」（6年1組25名）音楽室・教室

4時限目（11:45～12:30）「体験型プログラム」（6年2組25名）音楽室・教室

2014年11月13日実施（七ヶ浜町立松ヶ浜小学校）

2時限目（9:30～10:15）「鑑賞型プログラム」（6年生57名）音楽室

3時限目（10:40～11:25）「体験型プログラム」（6年1組29名）音楽室・教室

4時限目（11:35～12:20）「体験型プログラム」（6年2組28名）音楽室・教室

2014年11月14日実施（多賀城市立多賀城東小学校）

2時限目（9:35～10:20）「鑑賞型プログラム」（6年生86名）音楽室

3時限目（10:40～11:25）「体験型プログラム」（6年1組29名）音楽室・教室

4時限目（11:30～12:15）「体験型プログラム」（6年2組29名）音楽室・教室

5時限目（13:40～14:25）「体験型プログラム」（6年3組28名）音楽室・教室

*活動終了後に児童と教師に対してアンケートを実施。

《内容》

◎鑑賞型プログラム（45分）

① 導入・演奏／夕べに（シューマン）

- ねらいー音楽的な感受性を高めて、鑑賞の下地をつくる。

（活動の様子）

- ◆手作りのランプを児童に紹介する。これは地元・菖蒲田浜の砂から作られたガラスの玉が明かりを灯しており、幻想的な雰囲気醸し出している。その中で聴く演奏は児童の集中力を高め、静寂の中にピアノの音色が響く。



（ランプの温かい明かりを灯す）

（児童の意見）（原文のまま、以下同様）

- ・「夕べに」という曲は一度聞いたことがあって、目の前でひいてもらったら、はくりよくがあってすごく感動しました。

② 演奏／「エチュード／革命」（ショパン）

- ねらいー目には見えない音楽の振動を実際に手で感じてみる。

（活動の様子）

- ◆「音は目には見えないけれど、手で感じる事ができるのです」という言葉の後に、児童は各自風船を胸に抱えながら演奏を聴く。手のひらに振動が伝わり、児童は目を見合わせたり、じっと振動を感じている。
- ◆演奏のダイナミックさに心奪われている様子も見られる。
- ◆太太鼓でも同じことが起こることを体験。



（手のひらでピアノの響きを感じる）

（児童の意見）

- ・風船で音を感じた時はピアノの音が風船の中で響いているように感じました。
- ・ピアノの演奏を、ふうせんを持って聞いて、音楽にさわられたみたいで、とても楽しかったです。
- ・ピアノをひいているとき風船を持って、さいしょは「何もおこらないんじゃないかな」と思っていたけど、しんどうがつたわってきて、すごかったです。

③ 演奏／「トルコ行進曲」（モーツァルト）

- ねらいーリズムに注意して演奏を聴く。

（活動の様子）

- ◆曲が作られた当時のトルコ軍楽隊の写真や、シンバルのペダルが付いたピアノの写真を紹介し、演奏する。
- ◆シンバルや太鼓のタイミングを各自考えながら、再演奏に合わせて自由に行う。（拍手と足踏み）
- ◆リズムのタイミングを変えて手拍子してみる。（創作へのヒント）



写真で当時のピアノを紹介



思うところで手拍子と足踏み

(児童の意見)

- ・トルコ行進曲は聞いたことがあったけど、なまで聞いたことがなくて、じっさいにきいてみたら、すごくはくりよくのあるところと、なめらかなところがあって、すごく良かったです。

④ 演奏／グラナダのタベ (ドビュッシー)

- ねらいー古くからの人間の生活とリズムの関係や地域のリズムについて知る。

(活動の様子)

- ◆キューバで起こったハバナの踊りのリズム (ハバネラ) を紹介し、その雰囲気を理解するためにダンスをする様子の写真を紹介し、演奏を聴く。
- ◆大人っぽい曲だが、児童は熱心に耳を傾けて聴いている。



ハバネラのリズムを分かりやすく

⑤ 演奏／子犬のワルツ (ショパン)

- ねらいー曲の構成、三部形式 (A - B - A) の理解。

(活動の様子)

- ◆三部形式を理解するために、サンドイッチを例えにして説明し、具体的に良く知られている曲を演奏。



子犬のワルツで三部形式を説明

(児童の意見)

- ・郁代さんがひいた曲の中で一番好きなのが「子犬のワルツ」です。ラジカセで少し聞いたことがあるのですが、ピアノでひいているのを近くで聞くと、かわいらしい子犬がダンスをしているようなことが頭でうかんできました。

⑥ 活動／英雄ポロネーズ (ショパン)

- ねらいーポロネーズのリズムやその時代背景、作曲者ショパンについてのお話を聞いて、人々の思いを想像しながら演奏を聴取する。

(活動の様子)

- ◆ポロネーズのリズムに込められたショパンの心情や、ポロネーズを聴いて勇気を奮い立たせるポーランドの人々などの話を聞いて、より集中して演奏を聴いている様子が見られる。
- ◆児童を2グループに分けて、4拍子の異なるリズムを叩く。2つのグループが同時に行くと、ポロネーズのリズムが聞こえてくる。→創作へのヒント。(リズムアンサンブル)



(ポーランドの人々の心に思いを馳せながら集中して聴く)

(児童の意見)

- ・外国で歌を歌って大変なことを乗り越える国もあるんだなと思いました。
- ・音楽というのはすごく大切なんだなということがわかった。
- ・仲道さんが弾いてくれたピアノの演奏もすばらしくて、とりはだかたちました。
- ・ピアノを聞いているとその曲のストーリーにすいこまれるようで、とてもきれいでした。
- ・英雄ポロネーズの作曲者のショパンさんは、20才から死んでしまうまでの間、自分の国に帰れないなんてかわいそうだなと思いました。

◎体験型プログラム（45分）

① 導入／ボディーパーカッション（7分）

- ねらいーリズムを身体表現しながら創作活動のための下地作り。

ノンバーバルコミュニケーションによる心の交流・開放を図る。

（活動の様子）

- ◆創作の時間に音楽室にやってきた児童を、ファシリテーター役の大人1名が叩く打楽器のリズムで迎えたため、スムーズにワークショップが始まった。仲道氏やファシリテーターの無言の導きによって、全員輪になって並ぶ。
- ◆リーダーは表情と身体の動きのみで児童の動きを導き、全員でボディーパーカッションを行う。児童は不思議な空間に戸惑いながらもその場を楽しんでいる様子。
- ◆リーダーがボディーパーカッションによるリズム打ちを行い、別のファシリテーターがそれを受けて、逆さまにしたリズムを返す。（この時、リズムを逆さまにしたことが分かるように言葉を付ける。）これを二人が同時に行うと、新しいリズムが聴こえてくる、ということを確認する。（鑑賞プログラムの時に行ったリズムアンサンブル）その後、児童も一緒にこれを行う。



打楽器のリズムが雰囲気を盛り上げる



笑顔が多いボディーパーカッション

（児童の意見）

- ・ボディーパーカッションでは、最初、何をやっているのかよくわかりませんでした。でも最後は私もリズムにのってたのしくやっていました。
- ・ボディーパーカッションはすごくたのしかったです。体をつかって音をたてるのがよかったです。
- ・ボディーパーカッションの時、みんなの前で音を出して遊ぶのはとても楽しくて、はずかしかったけど、もう一度やりたくなる遊びでした。

② 創作活動（23分）

- ねらいー「思い」をリズムや音階で表現する。

仲間でコミュニケーションを図りながら、創作活動を行う。

（活動の様子）

- ◆創作のテーマは、自分たちの町の誇りに思うものや元気が出るもののキーワードを話し合い、それを表すと思うリズムの案を出し合い、楽器や打楽器、ボディーパーカッションを使って皆で創作する。
- ◆7～8人の児童のグループにファシリテーターが2名参加し、まず自己紹介を行い、コミュニケーションが円滑に行われるようにリードする。
- ◆児童が使う楽器の中でメロディが表せるのは、木琴か鉄琴のみで、後はマラカス、ジャンベ、ギロ、スレイベル、クラベス、カバサ等の打楽器である。何も持たない児童はボディーパーカッションや声で表現する。



車座になってまずは自己紹介から



丁寧に耳を傾け、アドバイスする仲道氏

- ◆ファシリテーターはちょっとした児童のつぶやきを拾い、他の児童に提案したり、様々なアイデア（リズムをつなげる、合わせる、逆さま、ずらす、対話する、音楽の構成（A—B—A）、表情（強弱・遅速など））を投げかけたりしながら、児童に工夫を求める。
- ◆木琴をマレットでなでるようにしている女子児童は「波」を表現していると言い、もう一人の児童はそれにリズムを重ねている。途中で役割を交代するなどの工夫をしている。また、二人の男子児童が会話するようにジャンベを叩いている。クラベスを持った児童は、他の児童のリズムに合いの手を入れるようにリズムを打ったりしている。
- ◆仲道氏は児童のグループを回りながら、どんなリズムを作っているのか、それはどんな意味があるのか等を問いかけたり、構成や表情に工夫を求めたりしていた。
- ◆積極的に意見やアイデアが出て創作がスムーズに行くグループもあれば、停滞するグループもあり、時間内で仕上げるためにファシリテーターが誘導せざるを得ない場面も見られた。



友達の声やリズムを聴き合う

（児童の意見）

- ・グループでリズムを作るときも、自分たちで「これ、やろう」「これなんか、どう？」とか相談しながらやるのが楽しかったです。
- ・私は音楽が大好きなので楽しかったです。一番楽しかったのは、グループでリズムをつくったことです。いつか自分で曲をつくってみたいと思いました。これからも、音楽を好きでいたいです。
- ・グループでリズムを作るのは「できるわけじゃない」と思っていたのですが、やってみると「あ！こんなに簡単に作れるじゃん！」と思いました。みんなの前で発表するのは少し緊張したけど楽しかったです。
- ・周りにある物や体で音を出して表現するのがとても楽しかったです。もう一回やってみたいと思いました。ぜひ、友だちとやってみたいです。あと、楽器と合わせたりするのも楽しいです。

③ 発表（15分）

- ねらい—自分たちで工夫して作った音楽を一つの作品として発表する（表現）。

他のグループの発表を聴き、意見を発表しあうことで、音楽を分析的に聴取する力を養う。

（活動の様子）

- ◆グループごとに創作を発表していく。
- ◆他のグループの良いところを見つけて発表する。
- ◆仲道氏が、児童が工夫している点を具体的に指摘して、個別に再度発表させる。そのことで他の児童は改めてそれらを認識・理解する。
- ◆児童が工夫した点をそのグループのファシリテーターが言葉で補足説明する場合もあった。
- ◆創作時、口数が少なく消極的だった児童が、発表では精一杯頑張っている様子が見られた。
- ◆緊張しながらも発表を楽しんでいる様子だった。



各グループの発表

(児童の意見)

- ・発表ができて良かった。またリズムを発表したい。
- ・みんなの前で発表できたのがうれしいです。
- ・発表がうまくいったのですごくいい気分になった。
- ・ボディーパーカッションやグループでリズムを作って発表するのがすごく楽しくかったです。自分たちでもリズムをつくって楽しめるやり方がよくわかりました。

◎その他の児童の意見

- ・音楽を聞くことも音を感じることも仲間とリズムを作ることも、すごく楽しいことなんだと思いました。このアウトリーチを受けてみて、また一段と音楽が好きになりました。
- ・音楽の楽しさや、音楽の大切さをあらためて知り、とても楽しかったです。音楽を楽しむことを教わりました。演奏している時の指使いがすごかったです。
- ・プロのピアニストさんを間近で見れて良かったです。指がすべるようにピアノを演奏していて音色がきれいでした。風船を持ってピアノを弾いてもらおうと振動が伝わりました。グループでリズムをつくるのはみんなで意見を出し合って協力してできたので、楽しかったです。今回のアウトリーチは音楽を身近に感じることができ、すごく良い体験になりました。
- ・すごくはくりよくがありました。今まであんなに近くでピアノのえんそうをきくのははじめてだったのでビックリしました。グループでリズムをつくったときに、アイデアがたくさんあったので、工夫をしたりして、たのしめました。
- ・ぼくは今日一日一番楽しかったのは2時間目と4時間目です。なぜなら、アウトリーチでいろんな人と会えたからです。ぼくは今までは音楽の授業があまりとくいじゃありませんでした。でも、今日のアウトリーチで「もう少しがんばってみよう」と思いました。今日のアウトリーチは自分にとってとてもいい授業になりました。

◎教師の意見

- ・普段あまり音楽に興味を示すことが少ない子どもたちですが、仲道郁代さんのピアノを聴いて、すっかりファンになったようです。終わった次の日、「次はいつ来てくれるんですか？」と聞いてくる子どもも何人かいたほどです。仲道さんのピアノは子どもたちに夢を与えてくれました。ありがとうございました。
- ・自己表現が苦手な児童が多いが、その子もグループで音を奏でようと参加したり表現したりする姿がありました。
- ・普通あまり積極的に表現しない子が、楽器を使ってリズムをとったり、体を動かし表現したりする姿が見られ、音楽の力のすごさを改めて感じさせられました。
- ・普段の表情とは違い、あたたかく楽しい雰囲気の中で、音楽に浸っていた子が多い時間でした！またやりたいと話す子が多く、私たちも普段の授業を改善していく必要もあると感じました。ありがとうございました！！
- ・自己表現が苦手な児童を短時間で把握し、寄り添っていただきありがとうございました。子どもたち一人ひとりが満足感や喜びに満ちた2時間となりました。
- ・子ども達が目を輝かせて「楽しかった」と言っていました。緊張している児童もいましたが、創作活動が楽しかったようです。そして何とんでも仲道さんの演奏を目の前で見られたことの感動は大きかったと思います。ありがとうございました。
- ・普段無口な子どもも生き生き活動に参加していました。今年はダンスという新しい表現も加わり良かったです。やはりすばらしいもの、美しいものにふれると、子どもたちはひきこまれ、静かにきき入るのだと感じました。

《まとめ》

小学校の音楽科における鑑賞指導は、曲想の感受や音楽を形づくっている諸要素の聞き取り、構成の理解などが中心となっており、それらは多くの場合 CD による聴取である。児童はそれらを「題材」として聴取し、分析したり文章化したりする学習を進めていくことで知的理解を深め、聴取能力を高め、音楽活動を充実させていくことを目指しているのである。児童の捉え方はあくまでも楽曲という題材であり、ほとんどの場合意識の中に演奏者は存在していない。

しかし、仲道氏は音楽を生きたものとして児童に触れさせ（心にも身体にも）、音楽の魅力を演奏者として言葉でも演奏でも伝えた。そのため児童はまず演奏そのものに対して大きな感銘を受け、そして仲道氏の言葉の中からイメージを抛り所として、音楽が表現している様々な感情を汲み取っていたようである。児童のアンケートからも分かるように、CD を聴く時とは全く違って、音楽（生演奏）に対して積極的な姿勢を示しているのである。

さらに仲道氏は本能的に音楽への愛の深さを児童に感じさせているので、児童の聴く耳のスイッチをオンにしていたとも思えるのである。このことはアウトリーチならではの効果であり、その意味を証明するものであった。つまり仲道氏の生演奏が児童に及ぼした効果は大きく、音楽科の授業への貢献度は高いと言える。

また、今回のワークショップはテーマを「リズム」に絞った事で、児童にとっては取り組みやすく、多くの児童が積極的に活動することができた。ボディーパーカッションでリズム作りのアイデアをインプットした事や鑑賞型プログラムの体験がプラスに作用していたと思われる。しかしその一方で、どうしても活動に身が入らずに、停滞してしまう児童も数名おり、そのため時間が足りずに仕上げる事が出来ないグループもあった。だが、いざ発表時には、その児童も含めみんなで何とか形にしてしまい、発表をやり遂げてしまうという事があった。結果的には全部のグループが作品として発表することができたのである。それは仲道氏の熱意が、物事を投げ出さずに頑張る、と言う方向に児童を導いたのかもしれない。

振り返ると3年目を迎えた今回の七ヶ浜アウトリーチは、より充実した取り組みとなった。仲道氏の演奏の素晴らしさや人間的な憧れ、努力することを目の当たりに見た児童への影響は音楽科のみに留まらず、他の学習や人格形成にも大きな影響をもたらしたであろうことを期待する。今後も継続が望まれる。

(近畿大学豊岡短期大学 鈴木香代子)

【助成対象経費報告】

一行：6名

移動費（東京～仙台往復）：137,660円

グリーン往復@29,270円×1名

普通往復@21,890円×4名

大宮・仙台往復@20,830円×1名

宿泊費（ホテルキャッスルプラザ多賀城）151,416円

@10,300円×1名×4泊、@6,600円×3名×4泊、@6,600円×1名×3泊

上記に係る消費税 11,216円

ピアノ調律経費：173,240円

合計：462,316円（うち支援対象経費 300,000円）